

令和4年度 家庭教育支援プログラム指導者研修④ 実施報告

実施日：令和4年7月6日（水）

【午前の研修】

○ グループワーク「ファシリテーター演習②」後半

総合教育センター職員 各教育事務所職員

前回の午後に行った思春期版家庭教育支援プログラムを実施するための再構成や役割分担等の準備を経て、2回目となるファシリテーター体験を行いました。どのグループも、研修会場に到着してすぐに集合し、プログラムの進め方について確認し合うなど、今回も大変意欲的な姿勢で演習に取り組みました。

各グループは、前回行った演習での成果や気づきを、今回実施したプログラムに盛り込んでいました。具体的には、掲示資料を工夫し、ファシリテーターが活動の方法等について説明する時間を短縮して、参加者が話し合う時間をできるだけ確保しようとする試みや、参加者から出た考えを何色かの付箋紙を使って整理し、その後のファシリテートしやすくする工夫を取り入れていました。

また、別グループのプログラムを、参加者として体験しながら得た気づきについて、振り返りの時間に熱心に確認し合う姿が見られるなど、充実した学びの時間とすることができました。



○ 説明「地域元気プログラムについて」

総合教育センター職員

家庭教育支援を地域課題として取り上げ、その解決をとおした住民同士のつながりづくりに活用できる「地域元気プログラム」について説明がありました。

受講者は、掲載されたプログラムには系統性があることや、別の課題と置き換え、アレンジして使用することが可能であることなど、その特徴についての解説と、掲載されたプログラムの体験をとおして、理解を深めることができました。



【午後の研修】

○ グループワーク「ファシリテーター演習③」前半

総合教育センター職員 各教育事務所職員

地域元気プログラムを活用して行うファシリテーター体験に向けた準備として、グループごとに指定されたプログラムの再構成に取り組みました。これまでの活動をとおして、より結束力を強めた各グループは、この時間も活発な意見交換を行い、プログラムのねらいに迫るための方策を練りました。プログラムへの参加対象者の属性が2種類となるなど、過去2回の実践とは異なる配慮が必要なこともあり、受講者は悩みながらも前向きにグループワークを進めました。



★受講者の声（アンケートから）

- ・2回目のファシリテーター体験、3回目のプログラム再構成、どちらもねらいを考えながら取り組むことができました。誰のどんなことに役立つ内容かを考えて、実践していきたいと思えます。
- ・質問をする場合に、何を意図しているかを分かりやすく伝えることが大切だということ、時間短縮のためにできる工夫がいろいろあることに気づきました。
- ・演習も2回目となり、流れや改善点がやっと見えてきました。何はともあれやってみるの大切さを痛感しています。
- ・プログラムのファシリテートに際して、事前準備の大切さを実感しました。プログラムの進行に集中しすぎてしまい参加者への気配りがおろそかになってしまうこともあるため、気をつけたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp